

横 田 館

《横 田》

横田館は、大字横田屋敷にあったといわれている。文安年間須賀川二階堂氏の一門で、横田左工門尉が館を築いて、居住したといわれている。横田、北横田、深渡戸、上小中を領有して子孫相続いて館主となった。

天正十七年、伊達政宗が松山に陣を敷いて攻めるに及んで、衆寡敵せず降つたといわれる。天神様の西に、古い五輪塔が並んでいるのを、土地の人々は殿様の墓と呼んでいる。その墓の中にある板碑を「かさつこじん様」と呼んで、若者たちが掃除をしていた。かさやくさの病に御利益があるといわれていた。

(話者 池田藤一・「梓衝村誌考」より)

横 田 陣 屋

《横 田》

大字横田字北ノ後にある陣屋跡は、元禄十一年、溝口摂津守源直行の所領となり、宝暦二年、溝口四代の領主、弾正真寛の代に館を建築して居住した。

そして、漸次、家臣の住宅も建造されて、天神宮、馬場大杉東より秋葉宮馬場まで一帯の建物は大変

横田城主の墓

